

第七編

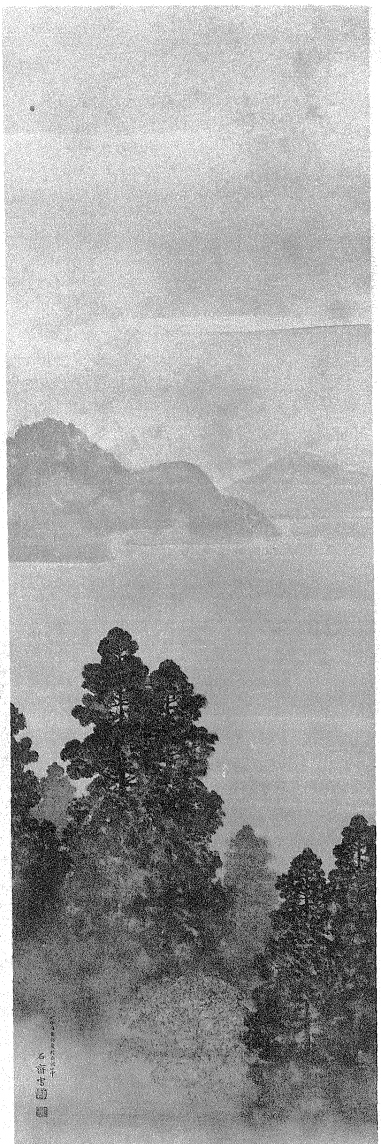
博士の揮毫「箱根蘆湖の景色」

同「草書七言絶句」

間成仿水初世極忙起黑風  
 驚夢時點滴遠聲如鼓環七  
 年想爾不覺如

大正甲子新表錄於德心

石高



博士の紀功牌並に京都市街の圖



# 第一章 博士の人物

## 一、性格の三大特徴

博士の性格の三大特徴  
負けじ魂  
と精緻綿密の用意  
と敦厚博大的精神

幼時より華甲の齡に達するまで、其の公私百端の生活を通じて現はれたる博士の性格には、自ら三の大特徴を有する。それは如何なる至難事にも屈せざる所謂負けじ魂と、また如何なる些事をも苟くもせぬ精緻綿密の用意と、而して敦厚博大的る忠恕の精神とである。此の三者は、鼎立して博士が六十年史を支持し、以つて有らゆる事業有らゆる行爲を産むの母胎となり、此の三者こそ一體となつて、今日博士の尊むべき人格を玉成せるものに外ならない。

六十年史  
中最も光輝ある大  
事業

博士が勇氣と獨創力との基礎

博士の六十年史に於いて、最も光輝ある事業は、琵琶湖疏水の大工事であり、次いで北海道の鐵道及び西伯利鐵道實査を始め、最高の育英と専門學上に於ける數多貴重なる業績を出せしにあるは、こゝに繰返して記述するまでもない。然も斯くの如き事業の遂行と、研究の進捗を助けしものは、或はこれを不屈不撓の勇氣に歸すべく、又或は、これを天稟の獨創的精神力に歸するを得るのであるが、しかし斯かる

博士の事  
業を進行  
せしめし  
大原動力  
たる性格

勇氣斯かる精神力もまた、以上の如き博士の性格が、まづそれに、確乎たる基礎を與へしものであらねばならぬ。云ひ換ふれば、此の<sup>(1)</sup>不負魂と、細心の用意と、忠恕の精神との充實せる性格が、洗練せられて幾多の美德となり、また併せて博士の事業をして、滑らかに進行せしむるところの大なる原動力となつて來たのである。

(1)工部大學でプリンクリー先生が數學の講義のとき先生は圓周率の計算方法を示した後に斯の如くにして得たる數字は  $3.1415926535\dots$  と三十位まで列記した。さうして其の學期の末の試験問題に圓周率の計算法が出たが博士は之を詳解した後に  $3.141592653507982840264\ 38327950288419716939937510$  と五十位までを列記した。プリンクリー先生は其の答案を調べた後、博士を呼んで君は圓周率の書附を持つて來たかと問はれた、博士は書附は持つて居りません只今書いて見せますと筆を取つて前記の五十位までを書き其の先が  $58209748415928078164$  であると又二十位を書いて出したが其の態度の明快にして謙讓たるにプリンクリー先生感歎措かなかつた。此の話は後に諸所へ傳はつて居たと見え博士が京大の教授に任じてから或る人が博士に此の事を話したら博士は夫は今でも書げるかも知れませんかと言つて五十位まで安々と列記したと云ふことである。

## 二、博士の負けじ魂

博士の負  
けし魂の  
強烈さ

難關突破  
の衝動

博士の内  
生活を支  
配せし好  
例

博士の性格の第一の特徴たる所謂負けし魂が、如何に強烈を極めたりし乎、既にこれは、編者が前篇に於いて章を重ねて述べしところ、即ち彼の流浪の一少年たりし時代に於いて、危急の身に逼るや、短剣を抜いて敵に向はむとせし如き、其の大學時代にては、右手の疼痛を忍び左手を以つて卒業論文を草しながら、結句之を得意とせし如き、又は外人技師を却けて、二十三歳の青年期に東西稀覯の大事業に着手せしが如き、或は未開の山野荒漠の敵地に出入して身邊の危険と艱苦とを知らざりしものゝ如き、凡そ常人にとりて咨阻逡巡するの外なき場合に臨むに於いて、博士の胸裡には、却つて一種云ふべからざる興味の湧き起るあつて、これが博士をして、敢然として難關を突破せしむる衝動となる。「斷じて行へば鬼神も之を避く。」この緊張せる性格は、外部の艱苦に處する際に發揮せらるゝのみでなく、博士自身の内生活をも支配して餘さぬのである。その好適の一例を左に掲げるであらう。

それは明治二十七年の出来事である。此の年は、博士が政府の囑託により、始めて北海道官設鐵道の調査に着手した年であるが、十二月に至つて博士は腸窒扶斯に罹つた。斯かる重患に冒されしことは、健康な博士として今日までの唯一のレコードであるといふだけ、それだけ、博士の苦惱は一層烈しかつた。其の月の十二日、



賜室扶斯  
の恢復期

博士は高熱に惱める身體を赤十社病院に運び込まれ、退院までは四十日を要したが、人も知る通り、室扶斯の恢復期には甚だしき食慾の亢進を伴ひ、従つて介抱人は患者の要求を拒むために、時としては喧嘩腰にならねばならない。當時或る人はこれを案じて夫人に假令博士の機嫌を損ずるとも、斯かる期間には絶対に過食させてはならぬと注意したものである。

併しながら、博士に對しては其の注意は無要であつた。病床の博士は、斷乎として咽喉から手が出るやうな食慾を抑制し續け、毫も不養生に陥らなかつた。全快の後夫人はいふ。「あの位辛抱の強い人が、時に私におまへの食事の菜は何か、など聞かれましたことを思ふと、自分で食べたいとは一言も云はれなかつたにしても、餘程それが苦になつたものと見えます」と。博士は斯く病的に亢進せる食慾をも例を負けし魂をもて壓伏したのみならず、更に輕快に赴くや、此の際の苦痛と、それのうち克ちし耐忍を記念するため、博士は京都在住の當時より嗜好し始めた喫煙を全廢し今日に至るのである。

バイロン  
の詩の一  
節

苦しむ斯くの如し、いへきも王は始終王者の如く、  
我が没落の威儀を保ち、

悩みのきわみのこの時にも、

彼の烈しき苦痛をば、彼の意志の臣下まなし、

嘗つては諸國の人民が彼の四周に服せし如く、

凡ての苦痛は蕭然として皆盡く服従せり。

——バイロン作マゼツパの一節——

不負魂は  
博士をし  
て大膽不  
敵たらし  
む

科學的考  
査を背景  
させる勇  
氣と膽力

詩人、バイロンの歌へるところ、所謂負けじ魂の神髓に及ぶ。而して此の不負魂こそ、博士をして、事に大膽ならしめ、又行爲を勇氣づけて、六十年史中に現はれたる、大小各種の事業に伴ふ艱苦辛酸を物の數ともせず、當時何人も手を着くる能はざりし多くの試みを斷行するの因となり、或は克己心の源泉となつて、如何なる場合にても、聲色を動かさざる博士一流の人格を完成する一大基準となつたのである。

然も博士にありては、その勇氣は暴虎憑河のそれにあらず、其の膽力は無鐵砲の度胸を意味するものではなかつた、事の真相を究むる綿密なる注意力と、其の注意力の結果たる科學的考査を背景としたもので、己を知ると同時に敵を知り、成否の數、勝敗の決は、常に掌紋を指すが如く明かなるを得しものから、博士は事に臨んで臆するの要を見なかつたものと思はれる。彼の雷翁ガミナリオヤジの稱ありし井上藏相の面を

或ひは井上藏相の面を犯し又は長等山にシヤフト工事を斷行す

綱渡りの如き曲藝も博士にすれば安全第一の道を災を轉して福となす

犯し、いつ破裂せんやも測られざる痼癘玉を前にして、従容自在、縷々二時間餘に亘り、自己の意見を開陳し、遂に彼を屈して北海道官設鐵道の大豫算に承認を與へしめし如き、又は當年大勢力を振ひつゝあつた外國技師の反對を却け、身命を賭して長等山の險に、我が國工業界空前のシヤフト工を行ひし如き、擧げ來れば、博士の勇は所謂臨事而懼、好謀而成者の勇であり、博士の膽や、我叩其兩端、竭焉たるの所謂知膽であることを示して居る。故に普通人の眼よりすれば、宛ら綱渡りの曲藝を演ずる如き危険も博士自身にしては長安に達する糸の如きの大道に足を運ぶの安全さを見るのであつて、若し災の起るに會せば、其の原因を研究して、必らず其の災を轉して福とせざれば已まぬのである。

博士は斯かる偉大なる性格の所有者として、往年、北海道にて空知太旭川線開通祝賀の席上に於ける不穩に處しても、なほ冷靜なる觀察を施すの餘地を存し、また所謂大學自治問題の勃發當時はいふまでもなく、二ヶ年間學長の位地にあつて、其の教授會の甲論乙駁に會する際に於いても、飽くまで平靜の態度を執るを得、終始餘裕綽々として公正の判斷を下すを常とした。博士は曰く「問題は一つであつてもこれに對する意見は各人各様である。従つて議論も沸騰するといふものである

餘裕綽々たる平靜の態度

亂麻を寧に解く  
の努力と  
根氣

が、それは少しも差支へなきのみならず議論は寧ろ歓迎すべきことである。何故なら諸種の意見や議論を集めれば結局は一番良い解決が得られるからと。即ち博士は快刀亂麻を絶つの手段をとるよりも、多くの面倒を忍びながら、其の亂麻を一々釋いて屑糸を出すの損失を免がれむとする堅實の努力を惜まない勇者である。同時に如何なる亂麻の如き事變にも、寛々としてこれに對し得る度胸者であるのである。

### 三、精緻綿密の用意

學術研究  
の前提

博士に異  
とすべき  
細心精緻  
の注意

凡そ有らゆる學術の研究は、綿密精緻の用意を前提とする。斯かる能力の足らざる者の手に完全なる研究の行はれしはなく、散漫たる頭腦の所有者が學者として大成せしあるを聞かない。されば斯學の棟梁たる我が田邊博士に、其の用意の綿密なるを稱するは、火に對して熱をいふと同様、頗る贅疣の觀あるを免れぬ。併しながら博士に異とすべきは、その能力が直接専門とする學術の範圍のみに限られずして、世上一般の事柄に間斷なく行き届き、何人も心づかざる問題にまで、隅なく其の注意を向けられて居る點にある。而して博士の圓滿なる常識は、實に斯かる

用心深き性格に由來せるものたるを忘れてはならぬ。

圓滿なる  
常識の基  
礎

井上藏相  
を畏れざ  
る博士は  
最も畏る  
べき人

偉大なる  
博士のノ  
ート

時間と事  
物とを巧  
みに處理  
する博士

博士は嘗つて井上藏相(馨)の人物を評して、彼の才智の忿湧には服するも、其の才智を待みてノートを持たぬ、故に畏るゝには足らないと喝破した。人を評するはなほ己を評するが如し。此の意味に於いて博士は最も畏るべき人と謂はねばならぬ。博士は天賦の聰明に加ふるに、寸時もノートを座右より放さざる人である。其のノートはよく博士をして事業に、研究に、社交に、凡べてに行亘つて間斷なく活動せしめる。行爲の前には豫定がある。其の豫定はノートに記されて、夫子自身に踐行を迫る。踐行の後には記録がある。其の記録は常に善く整理せられて、研究の資料に、論文に、報告に、講演に、將た著述に、事處位に應じて博士のために役立たずんば止まぬのである。博士は斯く周到に事を辨ずるとゝもに、また驚くべき細心を以つて時間を處理する。時間と事物とを如何に巧みに處理するやは、博士の所謂縦斷横斷法に於いて其の適例を見るのであるが、それは節を改めて説くことにし、今、博士の尊むべき性格の一大特徴たる、綿密の注意を立證した事實の二三を次に示すであらう。

其の一は、博士が北海道官設鐵道に關することである。博士が該鐵道事業に従事

綿密の注意を物語る二三の事例

博士の爲したるこころは注意を缺きたるものと謂ふを得ず

都市計畫施行に關しての注意

中、釧路鐵道を買上げたとき、帝國議會の協賛を経なかつたといふので問題になつたことがある。これがために蜂須賀懲戒委員長は其の當時の事情を調査したが、注意深き博士の爲せるところに、所謂違法行爲の有り得べき筈はない。調査の結果、北海道鐵道敷設法は、内地のそれと異なることが判明し、委員長は松田文部大臣に對し、明治三十四年四月十一日を以つて、博士の爲したるころは、仕拂命令官として注意を缺きたるものと謂ふを得ずと具申し、問題はそれ限り解決されて了つたのである。博士の細心鄭寧に加ふるに、其の人格の廉潔を以つてす。四十年の官吏生活に於いて、唯一回の譴責をもうけし事さへなき、もとより其のところである。

其の二は京都市の都市計畫に關係を有する。明治四十三年、博士は御所水道施設の事業に専心當らねばならなくなつた關係上、豫ねて囑託をうけて居た市土木顧問を辭し、以後は單に市の事業に關する名譽顧問たるに止むることゝした。其の際、博士は愈此の年以後京都市の道路擴張、其の他の事業が進捗すれば、市の街路や景況は當然其の舊形を失ひさらるべきを豫測し、其の年の七月十日より大學の夏期休暇を利用して、寫眞師をして市内各所の實景を撮影せしめた。其の乾板は今

も博士の手に保存して居るのであるが、博士の用意の周匝なる常に概ね此の類である。

水車一臺  
を購入す

なほこれよりさき、大正元年市は水力電氣發電所を新設し、第一第二の疏水の水を合流せしめることとなり、従つて舊發電所は不要に歸し之を材料の置場に當てる事となつた。同時に、舊發電所に据付けてあつた水車も不要であるので賣却に決した。博士はこれが賣却公告を見るや、直に其のうちの一臺を買入れたしと申込んだのである。何故ならこの水車こそ、日本最初の水力電氣事業の記念物であるから、博士はこれを購入して、大學へ寄贈するつもりであつたが、市は博士より其の事情を聞いて、それなればといふので、市より寄贈する運びになつた。爲に此の水車は現今大學の機械工學教室の東南部に据付けられ、其の車軸臺下の石には左の如く刻されて居る。即ち博士の注意ありしによつて、斯くの如き我が工業史上、貴重なる参考品の散逸を免かれ得たわけである。

工學史上  
貴重なる  
参考品の  
散逸を免  
かる

此水車ハ琵琶湖疏水工事發電水力用トシテ余ノ計畫ニ基キ明治二十三年東京石川島造船所ニ於テ製作セルモノニシテ、本邦最初ノ水力電氣記念物トシテ京都市ヨリ本大學へ寄贈

セシモノナリ大正元年十二月京都市帝國大學理工科大學教授工學博士田邊朔郎

博士の注  
意力と水  
電事業其  
他

常人なれば軽々に看過すべき事も、綿密細心の博士の眼を素通りすることは出来ぬ。見よ、この偉大なる性格が博士に存することによつて、琵琶湖疏水工事の繁劇の際に當つて、米國アスペンの水電事業は、歐羅巴諸國に先んじて我が國に輸入せられ、更に北海道に於いて鐵道敷設中には自働聯結機を京大教授時代には田邊式撓度振動記録機を、其の他多くの創見が見事に完成せらるゝを得たではないか。

#### 四、廉潔忠恕の精神

事業は畢  
竟人格の  
反映に外  
ならず

偉大なる人格を有する者にして始めて偉大なる事業に従ひ、又善く其の事業の大業を期するを得。事業は畢竟人格の反映に外ならざるが故に。古來大業が大人格を俟たずして營まれし例あるを聞かざる、もとより其のところである。此の見地よりすれば博士が幾多の大業を述べて後、なほ其の人格を説くが如きは屋上屋を架するものであらねばならぬ。さればこゝには、博士の人格の中樞をなせる、最も顯著なる性格を叙ぶるのみに止めよう。それは博士の六十年史を一貫して現はれたる廉潔忠恕の精神である。

廉潔なる博士は、自己の努力に對して他より酬いらるゝの厚きを欲せざると同時



博士の廉潔な側面を例

廣島水電と日本水電

京阪電氣の鴨堤聯絡線調査

他の努力に對しては己の報ゆるどころ薄からざるなきやをこれ懼れて止まぬ。彼の廣島電氣會社の如き、現在千二百萬圓の大資本を有する大會社となつたが其の經營の當初、水源池に於ける水力調査を行つたものは、我が田邊博士に外ならぬ。明治二十八年創立の際には、電壓一萬ボルト十三哩といふ日本最初の遠距離送電なるため種々苦心したものであり、且つ實際創業事務にまで參加したに拘らず、博士は斷じて謝禮を受けず、漸く還賀祝賀の記念に會社の志を納めし如き、又日本水力電氣會社の創立時代に於いても同様で、諸種の勞を執りながら博士は謝禮をうけざりしたため、明治三十九年五月大倉喜八郎氏は、會社總代として、博士の銀像置物一箇、其の裏面に、謹呈日本水力電氣創業者工學博士田邊朔郎殿と刻せるを贈り漸くこれを博士に受納せしめし如き、又明治四十二年、京阪電氣鐵道會社が、鴨堤聯絡のため博士に水理調査を煩はし、其の勞に報いんとせる際も、博士は市民の利便上盡力したので、會社のために圖れるものではないとこれを受けず、止むなく會社は、博士の還曆祝賀に當りて往年の恩を謝するを得し如き、博士が清廉の事例は枚擧に暇はない。

然も博士の清廉なる根本見地は、國家社會に對する學者的本分の偉大を信するに

國家社會  
に對せる  
學者的本  
分の自信

機會ある  
ごに經  
濟の許す  
かぎり寄  
附して惜  
まず

可憐なる  
殉職者に  
親切なら  
ざるを得  
ぬ博士の  
性情

あつて、學者の一舉一動は以つて民生の福祉を増進せむとするに存し、區々たる一箇人一團體のために力を盡すを目的とするにあらざるを示すに至つては、高明博大の風懷、轉た瞻仰の念に堪へないのである。

而して他の一方に於いて、博士は機會あるごとに、將た又、自家の經濟の許す限りの範圍に於いて、財物の寄附を惜しまなかつた。彼の東大並びに京大に於ける田邊氏獎學資金の如き、明治工業史に對する資料、及び資金の如きを始め、其の他苟も學術研究上に裨補するものは、これを得るごとに、隨所に寄附して一般の便益を計るはもとより、彼の明治三十九年の夏、松江市に赴いて、宍道湖上の嫁ヶ島に遊びたる際、風致保存のため石の華表を寄附せる如き、博士が時處位に應じて財を散ずるを意とせざる胸中のすがすがしさを想はしめられるのである。

斯くの如き美しき博士の性情は、社會に功績ありて、然も社會より認められず、國家に盡して然も國家の酬ゆるなき可憐の殉職者の上に一層親切ならざるを得ぬ。三條蹴上なる一身殉事、萬戸霑恩の建碑を始めとして、直接自己の事業に關係ありし人々の死を弔慰するに止らず、廣くこれを日本全國に及ぼし、有らゆる公共事業の犠牲者の靈を慰むため、彼の高野山に、英靈塔の創建に着手せる一事、博士が如何

私生活に於いては懇篤懇懃の好紳士

蓮舟翁に對する博士の篤行

博士六十年史の中核は忠懇の一語に存す

に同情の精神に富めるかを想察して餘りあるであらう。

公人として廉潔而して國家社會を利するに専らなる博士が、其の私生活に於いて親族故舊に對するに懇篤懇懃の紳士たるや謂ふまでもない。其の少年時代に於ける叔父蓮舟翁の恩を懷ふの深き翁の世を終るまで敬愛の情を運びて家政の逼迫を救ひ、又翁の餘生を安からしむるため居宅を新築し、或は金婚式を擧げて其の不遇を慰めしのみならず、翁命盡の後には、其の墓碑を建立し、蓮舟遺稿を上梓して知友に頒つたが、翁のために盡して至らざるなきを見るのである。

古人いふ、有一言而可以終身行之者乎、子曰其恕乎と。博士の性格の中核は眞に此の一言を以つて貫く。<sup>(1)</sup>而して博士が六十年史を飾るところの多くの光輝ある事業は、要するに此の一言に對する各種各様の註釋と見て差支へないであらう。

<sup>(1)</sup>博士は趣味として各種の技藝に通ずるも、所謂勝負ごとの類を好まず。圍碁將棋玉突其の他一切認むるところなし。されども學校での運動は熱心で機械體操の如きは實に上達したものであつた。大學ではフットボールのキアプテンであつた。博士が生死を賭して争はむとするところは學界の事業、社會國家の文化的事業に對し海外先進國に敗を取らざる點にあり。このために他を顧みるに暇はないのである。

## 五、博士の所謂縦斷横斷法

綿密細心の産物

博士の綿密細心の性格が生み出した所謂縦斷横斷法を説くには、其の順序として、先づ縦斷法を明かにし、次いで横斷法に及ばねばならぬ。

縦斷法とは何ぞ

時間に對する縦斷法として一日又は一週間の仕事の豫定を定む

縦斷法とは、其の日其の日の時間と、仕事に處する法で、先づ時間に對しては、起床後には何、朝食後には何、大學にては何、自邸にては何、就寢前には何と、略一日の間になすべき仕事の時間割を作つて置く。なほ何曜日には何の仕事といふ風に日割をも豫定して置くのであるが、博士は斯く一旦其の仕事の時間割、又は日割を決定した以上は斷じてそれを變更しない。謂ふまでもなく、病氣其の他身體上の故障や、又社會生活を營むで居る以上は、不意の來客や、其の他必要止むを得ぬ事情の生ずるために、其の豫定が實行出來ぬやうになることは有り得るが、若しさやうな故障が何回か續いて起る場合には、普通の人であれば嫌氣がさして、自然其の豫定に重きを置かぬやうになるけれども、然も博士は例外である。其の故障さへ消滅すれば、博士は悠然として、其の豫定の時間、又は日割に、當てゝ置いた通りの仕事を遂行するのである。

仕事に對する縦斷法

記録書籍を蒐集分類整理する設備

仕事に頭腦に浮ぶことの整理

右は時間に對する縦斷法であるが、次に仕事それ自體に對する縦斷法としては、其の仕事の種類に従つて、各それに關する記録書籍を蒐集し、之を分類し、又整理して置くために、箇々別々の箱が、博士の居室内に用意せられて居る。仕事によつては、これに従事する際に用ふる卓までも別のものを使ふ。故に博士の研究室や書齋には抽出の多い函があり、また種々な小函や机が置かれて、一見甚だ亂雜の様であるが、どの抽出しには何どの函には何どの卓には何と、博士自身明かにこれを區分して整列してあるのである。而して博士は、讀書並び調査の際に得た材料を、夫々其の種類に従つて、右の各種の抽出し、又は函の中へ、投げ入れて置く。ところが人の頭腦には或る不可思議の働きがあつて、一事に専ら腦力を集中して居る場合でも、ふと他の事が念頭に浮ぶことが有り得るものである。其の念頭にひよつこり浮んだ事柄が、意外の創見であることもあり、又インスピレーションとも云ふべき一種の妙案であることもないとはいへぬ。博士は其の場合、無頓着にそれをうち捨て、しまはしない。直に手近にある紙片や、反古に、其の事柄を認めて、其の種類によつて豫ねて分類して設けてある函、又は函の抽出しに收めて置く、それが積り積つて、他日有力な資料ともなり、又種々の研究材料に用ひられる。以上を博士自

博士着用  
の洋服内  
の縦斷法

ら稱して縦斷法といふのである。

縦斷法は研究室や書齋のうちにもみ止らない。博士着用の洋服にも同様の設備がしてある。即ちポケットがそれで、右のポケットには何、左のポケットには何と、手帳、鉛筆、財布、電車の乗車券類に至るまで、其の在りどころは一定して、必要に應じて博士の手に些の遲滞なく取り出される。入れどころに惑うてまごつくやうな事は絶対にない。この必要から、博士の洋服は其の仕立方にも特に注意が施され、上着とチヨッキとのポケットの位置を上或は下に多少譲つて取りつけてある。それ故に、全部のポケットに一抔にも、ものを入れても、ポケット同志が重なりあつて膨れあがるやうな醜さはない。従つて、博士はモーニングコートのやうなポケットの少ない洋服は好まないのである。椅子の如きも、脊にもたれのあるものは脊後を使用するに不便であるとの理由で愛用されない。

次に横斷  
法とは何  
ぞや

次に横斷法とは、斯様な緻密な用意のもとに趣向せられた縦斷法により、蒐集せられた幾多の材料を、適宜の時に一纏めにして整理する方法である。即ち短かい時日内に有り餘る仕事を片付けてしまうために用ふる方法が、横斷法であるから、従つて博士はこの時日内は有らゆる用事を打切つて、成し遂げようと思ふ其の一つ

箱根の別業は横斷法の本部

の事柄に、全時間全精力を集中する。これがために、其の期間は一枚の端書も容易に書かぬ。社交も能ふかぎり制限して、非常な大事でなければ謝つてしまふ。前章に説いた箱根強羅公園の博士の別業、有馬御所の坊旅館の一室の如きは、實に博士が此の横斷法を行ふための必要から出來たものであつて、從來世に公けにせられた「琵琶湖疏水誌」といひ、「どんねる」といひ、其の著述は、博士が大學教授としての多忙な日常生活のうち縦斷法によつて蒐集せられた材料を、一纏めにして大學の夏期休暇に此の別業に持ち出し、所謂横斷法にかけて、短かき時日内に完結した産物に外ならない。

博士一家の經濟上にも縦斷法を適用す  
通常經濟と特別經濟との區別

なほ博士の縦斷法の妙用は、時間と仕事との上に發揮されつゝあるに止らないで、博士一家の經濟の上にも及んでゐる。といふのは、博士家の収入や支出は、普通の家庭の收支勘定のやうな大ざつぱなものでなくて、通常經濟と特別經濟との別が嚴重に分たれ、假りに大學よりの俸給を通常經濟に充當し、このうちから、生計費なり子女の教育費、其の他が割當てられるとすると、他の収入、例へば或る機關の調査委員會に博士が委員である場合には、僅に毎年百圓か貳百圓かの手當が支給せられることありとしても、その収入は特別經濟として普通經濟のうちには繰り入れ

特別經濟  
の中にも  
幾多の分  
類を行ふ

斯かる周  
匝の用意  
なくして  
人は如何  
にして短  
かき一生  
に多くの  
事業をな  
し得べき  
か

ない。而して其の収入が性質の違つたものであれば、違ふに従つて、特別經濟の中にも種々の區別をたて、置く。銀行に預金する場合には、其の銀行も別々のところに預け入れて、預金通帳を同一にしないのである。勿論、長日月の間には生計費が餘分に嵩む時が出来て、他の費目の金を流用せねばならぬ場合もあり、例へば、教育費が多額を要して、交際費の積立金の中から支出せねばならぬと云つたやうな場合も生ずるが、其の際には嚴重な貸借關係にして置いて、他日その費目の金に剩餘が出来た曉は、直に流用して置いただけは控除して、舊の如く返還せねばならぬ事に定めてある。博士は四十年の生活を、終始サラリーメンとして一貫して來たのであるから、収入は豊富とは謂へないが、斯かる縦斷法適用の賜として、右の特別經濟組織が、非常に博士の家計の膨脹を妨ぎ、相當に學術的事業に寄附も出來れば、また比較的容易に親族や、他人のために補助することも出來たのであつた。

以上は博士一流の處世術たる所謂縦斷横斷法の大綱であるが、斯かる周匝の用意なくして、人は如何にして短かき一生に處し、多くの偉大なる事業を遂行し、また如何にして限りある収入の範圍内に於いて、一身の清廉を保ちつゝ、他の補助までも爲し得ようぞ。説き來れば博士の今日ある、蓋し偶然ならざるを知ると同時、後進



者は、以つて則とすべき尊き道を、自らそこに見出し得るであらう。